

令和8年度

授業改善推進プラン【小学校】

- ①令和8年度北区立小学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②令和8年度第2～6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 5教科(様式3)

東京都北区立西が丘小学校

令和8年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	教科全体では、目標値、全国平均、区平均を上回っている学年が多く、概ね基礎・基本は定着していると言える。観点別では「知識・技能」は、ほとんどの学年で目標値、全国平均を上回っているが、高学年は区平均を下回っている。「思考・判断・表現」は、全ての学年で目標値・全国平均を上回っているが、区平均を下回る学年が多い。話す・聞くの力や漢字・ローマ字等の言葉の力を高めることが課題と考えられる。
社会	教科全体では、目標値と僅差であり、概ね基礎・基本は定着していると言える。観点別に見ると、「知識・技能」では、5年生は目標値・全国平均は上回っているが区平均を下回っている。6年生はすべての項目で下回っている。「思考・判断・表現」は、5・6年生共に、目標値は上回っているものの、全国平均・区平均を下回っている。基本的用語を覚えているが、資料を読み取り、活用する力に課題が見られる。
算数	教科全体では、234年生は目標値を上回っており、概ね基礎・基本は定着していると言えるが、高学年は全てにおいて下回っており、学年によって大きな差が見られた。観点別では、「知識・技能」が、ほとんどの学年で区平均を下回っている。「思考・判断・表現」は、高学年が大きく区平均を下回っている。基礎的な計算の反復練習をしたり、既習事項を確認したりしながら自力解決をする力を育む必要がある。
理科	教科全体では、45年で目標値、全国平均、区平均を上回っており、概ね基礎・基本は定着していると言える。6年生は全ての項目で下回っており、学年によって大きな差が見られる。観点別にみると、6年は「思考・判断・表現」で区平均から大きく下回っており、学習内容を日常に結び付け、結果から分析したり考察したりする力を育むことが課題と考えられる。
外国語	教科全体では、目標値、全国平均を上回り、区平均とも僅差であることから、概ね基礎基本は定着していると言える。観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」共に、目標値、全国平均を大きく上回ったが、区平均をやや下回っている。基本的な表現方法を身に付け、自分の思いを伝えようとする意欲を高めることが課題と考えられる。

本校が児童に育成したい力
・基礎的な知識・技能をしっかりと身に付け、日常生活に活用できる力を育成する。 ・学びを深めるための、対話力を育成する。 ・主体的な学習や体験的な活動を通して、児童が感じたことを言語で表現したり知識を活用したりしながら、柔軟な思考力や豊かな想像力・表現力を育成する。

校内における学力向上推進体制
少人数指導委員会(算数少人数担当者・各学年1名) 研究推進委員会(校長・各学年・専科・日本語教室より各1名・教務)

本校の教育目標
○やさしく 進んで協力し、明朗で心温かく、豊かな感性の育成 ○かしこく 基礎・基本を身に付け、深く考える子の育成 ○たくましく 何事にもくじけない気力と体力の育成

学力向上にかかわる経営方針
・課題解決を主とした学習活動 ・校外学習・体験学習の充実 ・算数科における習熟度別学習 ・道徳教育や人権教育、特別活動の推進 ・ALTとの連携など、外国語学習の推進 ・一人一台端末の効果的な活用(ICT活用) ・家庭学習の充実

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・児童の[なぜ]を生かした課題解決型学習の充実、対話による学びの深化を促す。 ・児童の生活や体験に結びついた実感もてる学びを展開する。 ・対話力向上のために、おはなしタイム・詩の暗唱などによる対話スキルの向上を図る。 ・個に応じた指導の充実を図る。	・授業時数を十分に確保した上で、児童の実態に基づいた計画、実践し、反省評価を通して改善していく。 ・小中一貫教育プログラムを活用し、系統性のある授業計画を作成する。	・校内研究のテーマ「互いに学び合い、自らの学びを深められる子の育成」を目指して、年3回の対話的な学びを取り入れた授業研究を中心とした校内研修を実施する。 ・日常的に互いの授業を参観し、OJT研修を推進し、授業の改善点を話し合う。	・時間毎や単元毎の振り返りに、自己評価や相互評価を取り入れ、適正な評価をする。 ・指導法を改善するとともに、児童一人一人の課題を把握し個に応じた指導に生かす。	・コミュニティ・スクールとして、地域や保護者との連携を密に、児童の体験的活動の充実を図る。 ・スクールコーディネーターと連携して、地域の人材を活用した多彩な学習活動を行う。

〔様式2〕 令和8年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析
東京都北区立西が丘小学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全ての項目で目標値を上回っている。特に「文しょうをかく」では、目標値を24.8ポイント、「せつめい文をよみとる」では、8.6ポイントの上回りがある。	観点別正答率をみると、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「思考・判断・表現」では、全国平均より9.6ポイント高く、「知識・技能」についても4.4ポイント高い。	「知識・技能」では、概ね目標値よりも高いが、「ことばの学しゅう」の中で、「情報と情報の関係についての理解」でポイントが低い。「思考・判断・表現」においても、「きいたことをもとにはなしをする」が低く、どちらの観点でも「活用」に課題が見られる。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全ての項目で目標値を上回っている。特に「とけい」では、目標値を12.1ポイント、「たしざん」では9.8ポイントの上回りがある。	「知識・技能」で区平均を0.1ポイント下回っている以外は、目標値、区平均、全国平均を上回っている。特に「思考・判断・表現」では、目標値、全国平均を約9ポイントと、高く上回っている。	「知識・技能」では、「かたち」で約10ポイント目標値よりも低く、図形領域の理解に課題が見られる。「思考・判断・表現」では、全ての内容で目標値、全国平均を上回っている。

〔様式2〕 令和8年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内平均正答率は、目標値・区平均・全国平均を全て上回っている。基礎基本の学力は定着している。問題の内容別正答率8つ中、全部の項目で全国平均を上回っている。「かん字を読む」では、95. 5ポイントと正答率が高い。「お礼の手紙を書く」が49. 7ポイントと低いので、手紙等を書く経験を積み重ねていく必要がある。	観点別正答率を見ると、全国平均、目標値共に上回っている。区平均を見ると、「知識・技能」が2. 1ポイント上回っているが、「思考・判断・表現」は0. 9ポイント下回っている。	「知識・技能」では、「かん字を読む」、「かん字を書く」に課題が見られる。「思考・判断・表現」においては、「文章を書く」の力が低い傾向にある。伝えたいことを明確にして文章を書くことに課題が見られる。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内平均正答率は、目標値・全国平均はおおむね上回っているが、区平均をみると下回っているものが多い。「かけ算」、「ひょうやグラフ」では区平均を上回っているが、他6項目は下回っている。	観点別正答率を見ると、全国平均、目標値共に上回っている。区平均を見ると、「知識・技能」が1. 2ポイント下回り、「思考・判断・表現」は平均と同じである。	「知識・技能」では、「三角形と四角形」のにおいて課題が見られる。用語を覚えていないことに課題が見られる。

〔様式2〕

令和8年度 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
7項目中7項目全てで目標値を上回り、全国平均を6項目で上回っている。「文章を書く」においては、全国正答率を約20%、「話し手の内容を聞き取る」は約10%、「要約する」は約15%上回っている。	2観点いずれも全国平均、区の平均ともに上回っている。「思考・判断・表現」は約8%、「知識・技能」は約11%目標値から上回っている。	「知識・技能」の「漢字を書く」では、目標値の20%、「国語辞典の使い方」では約17%、「思考・判断・表現」の「調べたことをもとに文章を書く」では約26%上回っている。「話し合いの内容を聞き取る」は約2%のみ上回っていて、他の内容より定着度に課題が見られる。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
14項目中14項目全てで目標値を上回り、全国平均を13項目で上回っている。「2けた×2けたのかけ算」では約26%、「表とぼうグラフ」では約19%全国平均を上回っている。「1－真分数」の分数の計算は、約7%下回っている。	2観点いずれも全国平均、区の平均ともに上回っている。「思考・判断・表現」は約7%、「知識・技能」は約11%目標値から上回っている。	「思考・判断・表現」では、「円と球」が約1%、「知識・技能」では、「小数のしくみ」が約5%、「長さ、重さ」が約2%目標値から上回っているが、他の内容より定着度に課題が見られる。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
12項目中11項目で目標値を上回っている。「虫眼鏡の使い方について」では、23.6%の正答率で全国平均より2.6%下回っている。	2観点いずれも全国平均、区の平均ともに上回っている。「思考・判断・表現」は約9.4%、「知識・技能」は約8.6%目標値から上回っている。	「思考・判断・表現」では、「物の重さ」が4.5%、「知識・技能」では、「昆虫の育ち方」が4.1%目標値から上回っているが、他の内容より定着度に課題が見られる。

〔様式2〕

令和8年度 第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
8項目のうち7項目で目標値を上回り、全国平均は6項目、区の平均は2項目で上回っている。「話し合いの内ようを聞き取る」においては、区の平均を5.9ポイント「文章を書く」においては3.3ポイント下回っている。	「知識・技能」は、全国平均を1.1ポイント上回っているが、区の平均を3.6ポイント下回っている。「思考・判断・表現」は、全国平均を2.7ポイント上回っているが、区の平均を3.4ポイント下回っている。	「知識・技能」の「漢字を書く」について目標値を10.3ポイント下回る項目がある。また、「言葉の学習」について、連体修飾語、連用修飾語の理解が低く、共に目標値を6ポイント程下回っている。また、「思考・判断・表現」の「書くこと」について、自分の考えと事例の関係を明確にして書く内容が6ポイント目標値を下回っている。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
6項目のうち5項目で目標値を上回り、全国平均は4項目、区の平均は2項目で上回っている。「先人の働き」においては区の平均を4.3ポイント、「特色ある地域の様子」においては8.3ポイント下回っている。	「知識・技能」は、全国平均を2.9ポイント上回っているものの、区平均を1.5ポイント下回っている。「思考・判断・表現」は、全国平均を0.2ポイント上回っているが、区の平均を4.5ポイント下回っている。	「思考・判断・表現」については、目標値や全国平均と大きく差がある項目はないが、比較すると若干下回っている項目が複数ある。「知識・技能」については、「ごみに処理と利用」の資料を読み取る問題について6.9ポイントと、大きく目標値を下回っている。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
10項目のうち2項目で目標値を上回り、全国平均は4項目、区の平均は2項目で上回っている。区の平均と比較すると、「変わり方調べ」が同値だった以外は、全て下回っている。中でも、「角の大きさ」が15.7ポイント、「簡単な場合についての割合」が13.5ポイント、「折れ線グラフと表」が12.2ポイント区の平均を下回っている。	「知識・技能」は、全国平均と同じ、区の平均を5.5ポイント下回っている。「思考・判断・表現」は、全国平均より3.4ポイント上回り、区平均を4ポイント下回っている。	「知識・技能」については、「分数」で6.3ポイント、「小数」で6.3ポイント、「いろいろな形」の平行四辺形の作図で29.1ポイント目標値を下回っている。「思考・判断・表現」については、「角の大きさ」で2.8ポイント目標値を下回っている。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
12項目のうち5項目で目標値を上回り、全国平均は8項目、区の平均は6項目で上回っている。区の平均と比較すると、「月と星」が6.1ポイント、「物のあたたまり方」が3.1ポイント下回っている。	「知識・技能」は、全国平均を4.6ポイント、区平均を2.4ポイント上回っている。「思考・判断・表現」は、全国平均を3.1ポイント、区平均を1.4ポイント上回っている。	「知識・技能」については、「天気のようにすと気温」の問題で2.2ポイント、「月と星」の問題で2.9ポイント目標値を下回っている。「思考・判断・表現」については、「1年間の植物の成長」の問題で0.4ポイント目標値を下回っている。

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
8項目のうち6項目で目標値を上回っている。特に、「物語の内容を読み取る」では、11ポイント、「話し合いの内容を聞き取る」では9.7ポイント上回っていた。しかし、「漢字を書く」は5.6ポイント、「文章を書く」は12.3ポイント目標値を下回っている。	「知識・技能」は目標値を0.4ポイント下回り、区平均を6.5ポイント下回っている。「思考・判断・表現」は目標値1.9ポイント上回り、区平均を7.3ポイントと下回っている。「知識・技能」の力を特につける必要がある。	「知識・技能」では「漢字を読む」「漢字を書く」が低い傾向にある。また、「思考・判断・表現」では「文章を書く」について、低い傾向にある。「文章を書く」は、4つ全ての問いで目標値を6ポイント～19ポイント下回っている。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
9項目のうち、5項目が目標値を上回っている。特に「日本の工業生産」においては、6.4ポイント上回っている。しかし、「世界の中の国土」「日本の水産業」「自然環境と国民生活」は、4.2～14.9ポイント下回っている。	「知識・技能」で目標値を2.5ポイント、区平均を8.5ポイント下回っている。「思考・判断・表現」においても、目標値を1.6ポイント、区平均を5.9ポイント下回っている。	「知識・技能」では「日本の水産業」において、目標値を14.2ポイント、「自然環境と国民生活」においては22.7ポイント下回っている。「思考・判断・表現」でも、「自然環境と国民生活」において、目標値を6.2～16ポイント下回っている。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
10項目のうち5項目で目標値を上回っている。特に、「分数と小数」においては、区平均より1.6ポイント、目標値より8.9ポイント上回っている。しかし、ほかの9項目は区平均を下回り、「整数のなかま分け」は区平均より16.3ポイント下回っている。	「知識・技能」で目標値を2.5ポイント、区平均を10.3ポイント下回っている。「思考・判断・表現」は目標値を0.8ポイント上回っているが、区平均を5.9ポイント下回っている。	「知識・技能」では「多角形と円・合同」「面積」「立体と体積」において、目標値を同程度～17.3ポイント下回り、図形の領域における課題が見られる。「思考・判断・表現」では、特に「円グラフや帯グラフ・平均」において、目標値を12.9ポイント下回っている。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
10項目のうち8項目で目標値を下回っている。「植物の発芽と成長」「電流のはたらき」においては、目標値よりそれぞれ1.8ポイント、7.5ポイント上回っている。しかし、他の項目は1.7～5.8ポイント下回っていた。	「知識・技能」で目標値を2.4ポイント、区平均を5.2ポイント下回っている。「思考・判断・表現」においても目標値を2.1ポイント、区平均を6.5ポイント下回っている。	「知識・技能」では「天気の変化」において、目標値を2.5ポイント下回り、「けんぴ鏡の使い方」「流れる水のはたらき」等においても10ポイント近く下回る間いがある。「思考・判断・表現」では、特に「物のとけ方」において、目標値を9.5ポイント下回っている。
外 国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
9項目のうち6項目が目標値を上回っている。特に、「単語の読み」は13.6ポイント上回っている。しかし、「アルファベットの読み(聞く)」「アルファベットの書き(聞く)」「アルファベットの書き」は目標値を下回り、アルファベットの読み・書きに課題があることが分かる。	「知識・技能」で目標値を3.7ポイント上回っているが、区平均は1.5ポイント下回っている。「思考・判断・表現」は目標値を5.7ポイント、区平均を0.6ポイント上回っている。	「知識・技能」では「アルファベットの書き(聞く)」「アルファベットの書き」において目標値を同程度～9.2ポイント下回っている。一方で「思考・判断・表現」は同程度～15.2ポイント上回っている。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国 語）

東京都北区立西が丘小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	・平仮名の読み書きを確実に身に付けるため、繰り返し練習を積み重ねる必要がある。 ・絵日記や観察カードなどを書く際に、特殊音節や「は」「を」「へ」などの助詞を正しく使って文を書く力を育む必要がある。	・平仮名や長音・促音・拗音、助詞などを扱ったミニプリントに継続的に取り組み、正しい表記が身に付くようにする。 ・読書や音読の機会を増やし、語彙を豊かにするとともに、言葉をまとまりとして意識しながら読む活動を取り入れ、読みの流暢さを育てる。	・週末日記に継続して取り組ませ、自分の思いや考えを文章化することができるようにする。また、他者の文章を読み合う活動を通し、助詞の使い方や読みやすい文章の書き方に気付き、取り入れられるようにする。
2年	・「きいたことをもとにはなしをする」では、大事なことを落とさないように聞くことに課題がある。自分が聞きたいことを落とさないように聞いたり、自分の伝えたいことが正しく相手に伝わるように順序を考えて話す力を付けるための工夫が必要である。	・聞いたり話したりする前に聞きたいことや話したいことをメモする活動を取り入れ、相手に伝わりやすい順序を考えたり、大切なポイントを落とさないで聞いたりする力を高めていく。	・国語以外の教科、生活の中でも、聞き方話し方のポイントや手本になる話型を提示するなどの工夫をして、大切なことを落とさない聞き方や相手を意識した話し方、気持ちのよい対話ができるようにする。
3年	・新出漢字の読み書きを身に付けるために、書き順や用例などの指導や繰り返し練習し、定期的に漢字テストも実施してきたが、今後も漢字の反復練習が必要である。 ・活用能力を伸ばすために、説明文では、「はじめ・中・終わり」の段落構成や、段落相互の関係や文のつながりの指導の積み重ねていく必要がある。	・国語辞典を活用して、新出漢字や熟語への関心を高め、語彙を増やす時間を設ける。文章を書く時に、積極的に既習の漢字を使うように指導を重ねる。 ・説明文では、指示語や接続語に着目させ、段落相互のつながりを意識しながら取り組ませていく。	・国語以外の教科でも国語辞典を活用し、言葉の意味を調べたり言葉集めをしたりする活動を通して、言葉や漢字の定着を図る。 ・新出漢字の定着が不十分な場合は、漢字の小テストを繰り返し行い、漢字を書く機会を増やす。
4年	・説明文、物語文ともに、読み取ることができている児童が多い。 ・「漢字を読む」ことはできているが、「漢字を書く」ことについてはそこまでできてはいない。	・読み取ったことを友達と共有し、考えを深める授業が効果的だったのだと思われるので、引き続き取り組んでいく。 ・漢字やローマ字の読み書きを、プリント等を使い、繰り返し取り組ませていく。	・国語の授業だけでなく、道徳や学級会で発言する時にも根拠を基にして発言させるように心掛けていく。 ・プリントだけではなく、タブレット学習やタイピングなども取り入れ、漢字やローマ字の練習に取り組ませていく。
5年	・修飾・被修飾の関係等を理解するとともに、漢字を書く力や語彙の拡充が必要である。 ・相手意識をもち、自分の考えとそれを支える根拠を明確にして書くことを苦手としている。書く内容を整理して、構成を組み立てながら書く力を身につけていく必要がある。	・漢字については、意味や使い方を確認しながら、短文を書いたり日常的にくりかえし活用したりする機会を意図的に設ける。修飾語は、文の構造を可視化したり、修飾語を用いて文を豊かにする活動に取り組ませたりする。	・毎週漢字テストを行い、間違えた感じは重点的に復讐するよう促す。漢字の使い方や意味について考えたり書いたりする時間を継続的にもつようにする。 ・主語・述語・修飾語を色分けしたり矢印で結んだりして、関係を捉えやすくする。
6年	・内容別正答率で「漢字を書く」や「文章を書く」ことが課題となっている。既習の漢字を正しく書くこと、文章全体の構成や展開を考えることや資料から読み取った事実を書くことなどの力が不十分であった。	・漢字学習では、その由来や間違いやすい点に気を付けて練習させる。 ・文章を書いた際に、推敲する時間を設け、自己の文章を振り返る時間を設定する。 ・説明文を読み取る際に事実と意見を明確にさせる。	・補充プリントや学習端末を活用して、演習の機会を増やす。 ・文章を書くことが苦手な児童については、箇条書きから始め、接続語を使い文をつなげていくなど段階的に支援していく。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立西が丘小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・基本的用語(地図記号・方位)については定着しているが、資料の読み取りが苦手な児童への指導の工夫が必要である。	・見学体験に変わる、写真やデジタル教材などを活用してイメージをもたせ、実生活と関連付けながら児童の興味・関心を高め、課題を設定していく。 ・資料の読み取りの際に、着目するポイントを明確に伝える。また、対話の時間を確保して、資料から分かったことを児童間で話し合い、多面的な見方ができるようにする。	・地図の見方や地図記号などは、繰り返し提示したり地図で確かめたりして定着を図る。 ・調べ学習を通して、インターネットの活用や資料などの読み取りの力を伸ばしていく。
4年	・資料を見て何が書いてあるか、読み取ることが、まだ上手にできない。 ・地図の見方、都道府県、東京都の市区町村の場所についての理解度には差がある。	・資料や地図を丁寧に読み取れるようにする。まずは自分で資料を読み取り、グループやペアで読み取ったことを伝え合ったりして、資料を読み取る力を定着させる。確実に情報を読み取り、自分の考えを伝えられるように指導していく。	・教科書で学んだことだけでなく、新聞記事や、児童用パソコンを使って、調べ学習をさせたり、動画を見て学んだりして、理解を深めさせる。学習したことを新聞にまとめる活動を取り入れることで、自分の考えを整理できるようにしていく。
5年	・各単元の内容についてはある程度身に付いているが、知識をもとに説明することや、資料を読み取ることが十分定着しているとは言えない。日々の授業の中で、調べるためにどの資料を選ぶのか、何がわかるか、何が考えられるかなど観点を示して「資料を読む力」「資料を活用する力」を育てる必要がある。	・押さえるべき学習用語を丁寧に取り扱い、きちんと理解できるようにする。毎回の授業の中で「資料を見る→事実を見付ける→根拠を基に考える→説明する」という思考の流れを示し、確認しながら学習を進める。また、児童の生活に関係付けてまとめ、定着を図る。	・資料を読み取る視点を示したり、印や書き込み等を行ったりして、資料から必要な情報を読み取る力を育てる。また、まとめを穴埋め式にしたり、関連する別の資料を示したりして、まとめる力を伸ばす。
6年	・「世界の中の国土」「日本の水産業」「自然環境と国民生活」では、基礎的な知識を身に付けさせることが不十分であった。 ・「自然環境と国民生活」においては基礎的な知識が不十分であったとともに、資料を読み取る思考力が十分でなかったと考えられる。	・時事を話題にすることで、身近で起きている社会事象に興味をもつ機会を増やし、学習内容が活用されていることを実感させる。 ・学習用語については、学習用端末等を活用し、基礎の定着を図る。	・時事を話題にすることで、身近で起きている社会事象に興味をもつ機会を増やし、学習内容が活用されていることを実感させる。 ・学習用語については、プリントや学習用端末を活用し、基礎の定着を図る。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立西が丘小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	・答えが10以下のたし算、ひき算において、繰り返し計算練習に取り組ませる必要がある。 ・問題文からキーワードや求める答えが捉える力を高めていく必要がある。	・授業始めに計算カードに取り組ませ、反復練習をさせる。 ・たし算・ひき算のキーワードを教室に掲示し、キーワードが何かを全体で捉えることで演算決定をできるように指導していく。	・式から問題を作る活動に取り組ませ、友達とお店屋さん形式でお互いに問題を解き合うことで、様々な種類の文章問題に慣れるようにしていく。
2年	・「かたち」では、立体の面の形の理解や同じ形を見つける力が不十分であることがわかる。具体物を用いて、一人一人が自力解決できるように指導する必要がある。	・図形領域の学習の際には、一人一人が具体物を用いて課題解決に取り組む活動を取り入れる。 ・得意不得意の差が大きい領域のため、個別の支援を充実させたり、児童同士での教え合いを取り入れたりする。	・復習プリントや学習用パソコンを活用して、個人の力に応じた補充問題ができるようにする。
3年	・用語を覚えきれていないという課題が見られる。体験と言葉をセットで記憶させる必要がある。 ・計算が正しくできなかったり、かけ算が定着していなかったりすることから、計算の技能を定着させる工夫が必要である。	・用語を丸暗記させるのではなく、体験やイメージをセットで定着させる。ペア説明を取り入れ、言葉を使う機会を増やす。 ・短時間学習の時間に既習内容の復習時間を設ける。	・復習プリントを活用して、補充問題に取り組めるようにする。 ・児童に過度の負担にならないよう配慮しながら、休み時間や給食の準備中、放課後などに補習を行う。
4年	・「かけ算のひっ算に出てくる数の意味」や乗法の「計算の工夫」における答えの出し方が身に付いていなかった。 ・繰り上がりや繰り下がり計算など、基礎的な学習を身に付ける指導が不十分であった。	・基礎基本プリントを繰り返し解く、見直しをするなどを積み重ね、正確に速くできるようにする。 ・文章問題では、場面をイメージしやすいように、視覚教材を活用したり、図を用いたりしながら、立式や答えについて確実に理解できるようにする。	・宿題などの家庭学習を通して、計算ドリルやプリントに取り組ませ、学習内容の確実な定着を図るようにする。 ・発展指導として、問題場面を子供たちの日常の事象から設定したり、発展問題を子供たちが考えたりすることで、一人一人が主体的に取り組めるようにしていく。
5年	・各単元の内容についてはある程度身に付いているが、知識をもとに説明することや、資料を読み取ることが十分定着しているとは言えない。日々の授業の中で、調べるためにどの資料を選ぶのか、何がわかるか、何が考えられるかなど観点を示して「資料を読む力」「資料を活用する力」を育てる必要がある。	・押さえるべき学習用語を丁寧に取り扱い、きちんと理解できるようにする。毎回の授業の中で「資料を見る→事実を見付ける→根拠を基に考える→説明する」という思考の流れを示し、確認しながら学習を進める。また、児童の生活に関係付けてまとめ、定着を図る。	・資料を読み取る視点を示したり、印や書き込み等を行ったりして、資料から必要な情報を読み取る力を育てる。また、まとめを穴埋め式にしたり、関連する別の資料を示したりして、まとめる力を伸ばす。
6年	・図形領域における基礎的な知識を身に付けさせるのが不十分であった。そのため、図形を捉える理解が進まなかったと考えられる。また、「円グラフや帯グラフ・平均」の知識・理解の校内正答率が目標値に対して低いことから読み取りに課題があると考えられる。	・学習用端末等を活用し、図形領域についての理解の定着を図る。 ・「円グラフや帯グラフ・平均」学習用端末等を活用して復習をさせ、学習で取り上げる際に、読み取り方を丁寧に確認して、学習の定着を図る。	・図形の見方について学習用端末等を用いて立体的に捉えたり、断面を見たりすることができるようにして学習理解を進める。 ・6年生の年度末に小学校算数の復習を行う際に丁寧に扱い、全児童の理解の定着を図る。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立西が丘小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	・仮説を立てる際に、根拠となる事象のイメージをもつことが難しく、工夫が必要である。 ・考察場面において、結論をもとに考えることが難しい。	・実験・観察では、予想や考察の書き方のポイントをおさえるとともに、自分の考えを書き表す時間を十分にとる。問題作りの際には、体験的活動を取り入れるとともに、学級全体で共有できるようにする。	・観察や実験では補えなかったことを動画などを用いて確かなものにしていく。 ・学習問題を学級全体で確かめられるようにする。
4年	・昆虫の育ち方についての理解が不十分だった。幼虫、さなぎ、成虫の用語や成長過程を再度確認したい。 ・実験から、結果を分析することができなかった。長い文章を読んで、実験結果を読み取ることができていないことが原因と考えられる。	・教科書で学習する実験をした後、実験結果を、正しい用語を使って丁寧に説明する経験を積み重ねていく。器具の扱い方など身に付けなければならないことを丁寧に指導していく。また教室掲示等を活用し、学習したことを、生活経験と結び付けながら、授業を展開し、理解を深める。	・プリントや児童用パソコンのアプリを使用し宿題などで活用する。様々な問題形式に触れることで、答え方にも慣れるようにしていく。 ・実物に触れたり見たりする体験の機会を多く設定し、意欲や関心を高め、理解を深めることができるようにする。
5年	・観察や実験の結果や学習内容のまとめについて、丁寧にノートにまとめ、関係性をつかめるようにしてきたが、考察場面で結論をもとに考えることに課題がある。	・理科TTや理科支援員と協力して、支援の必要な児童へ個別指導を行い、理解を深められるようにする。毎時間、問題、予想、計画、結果、考察の流れを意識させながら授業を進め、条件制御や因果関係を明確にしながら授業を行うことを意識する。	・学習端末などを活用して、既習内容の充実した指導を図る。
6年	・実験方法や条件制御、実験結果の読み取りにおいて課題が見られ、実験時における基礎的な知識が不十分であったため、条件制御や結果の読み取りの思考に課題が現れたと考えられる。	・実験計画を立てる際に、制御した方がよい条件を見児童と共に精査したり、条件制御を行う理由を問い返したりして理解を深める。 ・学習用端末等を活用し、基礎の定着を図る。	・学習用端末等を活用し、5年生時に行った学習を振り返る機会を作る。 ・AIドリルや動画視聴を中心に学習の理解を促す。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（外国語）

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
5年	・モジュール学習では、映像や歌を何度も聞かせて自然なアウトプットができるように学習してきた。また、大文字や小文字の書き方について、こまめに継続して文字の練習を進めている。ALT とは、コミュニケーションの活動に重点をおいてきたが、自信をもって話せる児童がやや少ない。	・簡単な語句や基本的な表現を繰り返し用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動を丁寧に行う。 ・ALTと会話をする機会を多く設け、外国語を話すことに対して児童が自信をもてるようにする。 ・大文字・小文字の習得については、形の似ている文字に注意しながら違いを意識させて書かせる。	・単元末の発展学習を活用し、既習の学習の振り返りや新たな内容を知る機会を設ける。
6年	・内容別正答率で「アルファベットの読み(聞く)」や「アルファベットの書き(聞く)」、「アルファベットの書き」が目標値を下回る結果となった。アルファベットの読み書きの定着、基本的な表現の理解が不十分であったと考えられる。	・単元ごとの主となる基本的な表現を全員が読み書きできるようにさせる。 ・教科書の「sounds and letter」を使い、アルファベットの読み書き、聞き取り、例題を行う。 ・書いた英文をPictureDictionaryを使い推敲させる。	・朝学習で、学習用端末によるアルファベットの練習を行う。アルファベットや基本的な語句、表現の読み書きを確実に習得させる。 ・支援が必要な児童にはALTと協力して、適切な援助・助言をしていく。